

少子化対策これから10年間で勝負

【「子ども未来戦略」と「人口ビジョン2100」】
昨年末の12月22日、「子ども未来戦略」が閣議決定されました。政府はこの戦略において、令和6年度から8年度までの3年間に集中して取り組むべき新たな少子化対策を示しています。具体的には「児童手当の抜本的拡充」「出産等の経済的負担の軽減」「高等教育費の負担軽減」「子育て世帯に対する住宅支援の強化」などです。

これとは別に、年明けの1月9日、民間有識者でつくる「人口戦略会議」が、人口減少下で日本がとるべき戦略「人口ビジョン2100」を発表しました。同会議は、日本社会が成長し続けるには2100年の時点で8,000万人が必要である、そのためには今を生きる私たちが今動き出さなければならぬ、そして、そのときの核心は「若者世代への富の戦略的な再配分」であるとしています。

私は、「子ども未来戦略」と「人口ビジョン2100」のそれぞれについて、前者を「子どもをもつこと＝負担」という空気を払拭しようとする取組み、後者を意欲のある若者が結婚・出産できるための支援をすることを求める取組み、と捉えています。

でも日本の出生数は減り続けていました。ただ、その減り方は緩やかであったために、多くの人の反応は鈍く、まさに「ゆでガエル」状態にありました。「ゆでガエル」状態にありました。出生数が急減している原因はハッキリしています。「晩婚化・晩産化による妊娠適齢期の喪失」と「若者の出生意欲の低下」です。

「晩婚化・晩産化」は、どうしても子どもを産み育てる期間を短くし、必然的にもうける子どもの数を少なくします。もう一方の「若者の出生意欲の低下」とは、子どもをもうけることにそもそもためらいがある若者が増えているということです。特に若い女性の間はその傾向が著しくあらわれています。

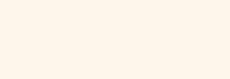
【高まる若者世代の非婚意識】
あわせて、近年、若い世代の非婚意識が高まっています。その多くは結婚をためらっている人たちです。そのほとんどが「経済的な理由」によります。前述の出生意欲の低下の大きな原因も「経済的理由」です。いろいろな調査結果から、子どもをつくらない理由の約8割が「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」ということがわかっています。つまり、非婚意識と子どもをつくらないという気持ちの根底にあるのはどちらも経済的理

【残された時間】
昨年の7月5日、市は、子ども家庭庁が定める「子どもまんなか応援サポーター宣言」を発表しました。市はこれまでも他にさきがけて子育て支援の充実に取り組んできました。そこにはやはり子どもを産み育てることの負担を軽減しようとの考えがありました。ただ、子育て支援策だけで少子化を克服することはできません。人口減少を抑え込むためにはさらなる踏み込みが必要です。その一つが、若者世代の出会いと結婚への環境づくりだと思っています。

【残された時間】
日本の少子化対策はこれから10年間で勝負といわれています。90年代の出生数は毎年120万人ほどありました。ミレニアム世代です。いま、彼らが20代から30代となり出産適齢期をむかえています。それ以降は急激に出生数が減っています。母が小さくなり、続く出生数の減少にブレーキをかけるのは難しくなります。今こそ世代を超えた助け合いが必要なのだとあらためて私は感じています。



にかほ市長
市川雄次



教室で使用したmBotとタブレットを持った金浦小の児童たちと

Vol. 4 小学校プログラミング教室



仁賀保高校情報メディア科では毎年、市内の小中学校でプログラミング教室を実施しています。これは情報メディア科2年生の「情報システムのプログラミング」の授業の一環で、mBot（プログラミングロボット）を使用したプログラミングを小学生に体験してもらっています。今年度は、象潟小学校、平沢小学校、金浦小学校の3校で行いました。

本校の生徒にとっても、小学生へのサポートをとおして教えることの難しさを実感しながら、自分たちの学びをより深めることができたと有意義な活動となりました。このように地域との関わりを大切にしながら、今後もさまざまな活動をおして地域の活性化に貢献していきたいと考えています。

参加した仁賀保高校生の声

- ▶ 今回のプログラミング教室で私が教えた児童たちは、最初やり方がわからない時は私の話を素直に聞いてくれて、その後は自分たちで考えてプログラムを修正していたので、飲み込みが早いなと思いついていました。お互いに協力している姿を見て微笑ましくなりました。
- ▶ 礼儀正しくていい児童が多かったです。小学生のうちからプログラミングに触れることで、知識だけでなく発想力や応用力などさまざまなことに役立つ能力が身につくと思うのでいいことだと思います。
- ▶ このプログラミング教室をとおして、プログラミングや情報メディア科に興味を持ってくれたらいいなと思います。



秋田県立
仁賀保高等学校

当校では、ボランティア活動による地域貢献、情報発信力強化による地域の活力向上など、地域課題の解決に向け「自分たちのまちを、未来を、楽しく面白く」していくためのアイデアを形にしていって取り組みを行っています。

